



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.48

2012年7月1日発行

三井V-Netの留学生支援

長谷川 健治
(横浜国立大学 留学生センター准教授)

三井V-Netの皆様には、私が横浜国大に着任した2003年から、多方面にわたる留学生支援活動でお世話になっています。一対一交流は当初、私が直接担当しているJOYプログラム(交換留学生用の英語プログラム)を対象として行っていました。現在では高レベル(中国政府派遣留学生)、MPE(国際社会科学研究所英語プログラム)をはじめとする大学院留学生を含む、30名強が参加しています。私自身、海外育ちで怪しい日本語を発する留学生的存在ですが、いつも皆様に温かくサポートされ感謝しております。



一対一ベースの交流活動に加え、学期はじめの恒例イベントとなっているYokohama Welcome Walk、工場見学、流鏝馬見学、座禅会等、留学生にとって貴重な文化体験の機会を提供していただいています。教育面においては、オムニバス形式の国際交流科目「日本の企業システム」の講師を担当していただいています。財閥形成から最近のIT産業まで日本の企業と産業を巡る諸テーマを網羅し、実務経験豊富な講師の皆様が熱

意をもって知識と知恵を伝達するこの授業は、毎年受講生から高い評価を得ています。ここ数年、学生による授業評価アンケートの評価点において、私自身が担当している歴史系の国際交流科目は「日本の企業システム」に惨敗し続けています。今年こそリベンジを果たせるよう、励んでいるところであります。

現在の交換留学生用のカリキュラムが日本語科目と英語による教養・専門科目(国際交流科目)に二分されているなか、日英混合で運営されている「日本の企業システム」は現時点では例外的な科目です。最近では一部の英語圏の大学でさえ、留学生受入れ拡大に伴い語学力(特に英語のライティング)を重視する従来の成績評価基準の見直しが強いられているケースがあるようです。本学においても、留学生の受入れおよび日本人学生の海外派遣を拡大していくにあたって、「日本の企業システム」で三井V-Net横浜国大部会の講師の皆様が弾力的に実践してくださっているような言語的配慮を行う授業のさらなる整備が進められています。

4月24日には初の試みとして、三井V-Net横浜国大部会員の皆様、本学の交流留学生及び教職員を対象とした歓迎レセプションをキャンパス内で実施しました。普段のキャンパス生活で出会うことの少ない多様なプログラムの留学生と教職員がボランティアの皆様と共に歓談している姿を眺めながら、本学の留学生支援に三井V-Netが果たしている貴重な役割を改めて実感いたしました。今後とも変わらぬご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



座禅の体験



運営会員会社・運営委員

三井グループ全体の社会貢献活動の シナジーを目指して

誉田 卓也 (東芝)

2011年度三井V-Net運営委員長の誉田(ほんだ)です。1年間大変お世話になりました。未熟で若輩者の私ではありましたが、飯尾理事長、山崎事務局長以下、本部支部の皆様方のご協力、運営会社各位のご指導のお陰をもって何とか務めることができました。この場を借りまして改めて御礼を申し上げます。



2008年のリーマンショック以降、昨年の東日本大震災やタイの水害等グローバルで頻発する大規模自然災害の影響、また直近ではユーロ危機への懸念等、我々企業を取り巻く事業環境がますます不透明さを増す中で、三井V-Netを支え、支援頂く企業ならびにボランティア会員の皆様方に対しましては心よりの感謝の念に耐えられません。引き続きご支援の程宜しくお願い申し上げます。

さて、前運営委員長に於かれては、定款ならびに諸規定の見直しに大変なご尽力を頂きましたが、2011年度は、三井V-Netの中長期的な安定運営に向けて、休会社への会員復帰への再依頼、二木会の未加入会社を中心とした新規会員加入のお願いを事務局と一体となって取り組み、一定の成果が得ることが出来ました。更に実務ベースでも一層の情報共有を図り、業務の効率化と費用の節減に継続してご努力を頂いております。

私が3年前に三井V-Netの運営に関わらせて頂くようになって以降、この事業団の主役であるボランティアの皆さん方の、社会貢献への意識の高さとそのエネルギーな行動力、実践力には、折に触れて圧倒されるものがあり、改めて三井グループの結束力を再認識するとともに、三井V-Netの活動を根底で支えて頂いている、我々の大先輩のボランティアの皆さん方に改めて敬意を表したいと思います。

企業におけるCSR (Corporate Social Responsibility) とは、今や企業経営そのものと言ってもよく、企業が社会の課題に誠実かつ積極的に向き合い、本業を通して社会責任を果たしていくために、従業員一人ひとりの意識改革が何よりも重要です。

本事業団の取組みが、三井グループ各社の様々な活動と連動し、三井グループ全体のCSR、社会貢献活動を牽引できるように、微力ながら引き続き運営のご協力

をさせて頂きたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

本部 (東京)

留学生との交流

亀倉 基英 (王子製紙 OB)



筆者右と崔君

2010年9月末に45年間のサラリーマン生活に終止符を打つにあたり、友人から三井グループで留学生の支援活動を行っていると聞きました。早速三井V-Netに連絡をとり待っていたところ、呼び出しがあり、東京大学で韓国から来ている崔榮晋君を紹介されました。

崔君は建築学科の博士課程への入学を希望でしたが、2011年春の入学試験を待っている状態でした。もちろん彼は試験をパスし今は研究に励んでおります。

支援という観点からは、私はほとんどなにも役に立っていないようです。彼は一人で住民登録も家を借りる交渉もこなしました。今年4月からは家族(奥さんと娘さん一人)も来日し港区白金の東京大学インターナショナル・ロッジに入居しました。

私との交流は、原則として一週間に一回東京大学本郷キャンパス内の国際交流室で新聞や雑誌を前に置いて、その週に起きた日本だけでなく世界の出来事を、ああでもないこうでもない話し合うことが中心です。

話しがはずんで、歴史に踏み込んだり、お互いの経験談となったりもします。忘年会の話から私の家内も加えて本当の忘年会もしました。土用の丑の話に発展して、暑いさなかにウナギを食べに池之端まで出向いたこともありました。

せっかくの交流なのだから、いかばかりでも崔君が日本を理解することのお役に立てればと思っております。崔君は非常に研究熱心で朝早くから夜遅くまで研究室に閉じこもりがちのため、ややもすると庶民的な話題に疎くなりがちですが、交流を通じてできれば日本の底辺の流れを感じ取ってもらえたらと願っています。毎週の小さな市井の出来事でも、日本の歴史の流れの中でなぜそうなったのか、世界との比較ではどうなんだろうかと、二人で考えながら話しをするよう心掛けています。私にとっても大変勉強になります。

ロシア留学生との交流

忍田 貞夫 (東洋エンジニアリング OB)



左から筆者・オリガさん・ポリーナさん・孫娘

これまでの千葉大留学生との交流の数々の中から今桜のシーズンに思い出すのはロシア娘オリガとの花見です。

2年前の4月、近くの香澄公園へ彼女を招待。妻と一緒に賑わう近傍の花見客の中、満開の桜の木々周辺を散策しました。

オリガは文学部、芥川の本を貸してゆったり怪談の卒論テーマのアンケートに協力してやったりしました。170センチの長身の美女、健脚で良く歩かし、出されたものは全部平らげてしまう健啖ぶりです。将棋にも興味があるので簡単な詰将棋を出してやります。そのあとかねてからの私の希望、ボルシチをわが家で料理してもらうことに同意。8月のある日仲間のポリーナとわが家へやって来ました。

この日孫娘の真由花も呼び、ポリさんの指導の下、皆でロシア料理ボルシチを作りました。(写真参照)スパイスや赤カブなどは持参してもらいあとはわが家で用意しました。「作るのは時間がかかるが食べるのは早いですね」とオリガのつぶやき。

その年帰国後、とてもきれいなクリスマスカードをくれました。彼女のお蔭で一時はロシア語をよく勉強し、いまでも少しは続けています。

駒沢大学での国際交流

佐藤 弘 (三越 OB)

2011年の留学生の感想文では『実際に日本人と接触した交流では、こんなに熱心にご指導いただいたことにとっても感謝いたしております』と、



左から周さん、筆者、宋さん

お礼の手紙をいただきました。文面も来日時と比べると日本人が書いたのと同じ位上達していたことに驚きを感じました。日本語検定試験(N1)受験指導と、確かな日本語会話、文章添削、日本の文化社会・マナーと礼儀・手紙、ハガキの書き方、四季の挨拶・日本の一般家庭

の食事・歴史等、新しい分野のカリキュラムを取り入れ、中国人2名(写真)のみの交流でしたが全ての項目に大変興味を持ち毎週2回の交流を休むこともなく続けられたことに我々も感心させられました。

イベントでは初の体験である『富士山日帰りバスツアー』に私費留学生を含む11名の参加があり『富士山に登れる興奮・雪を手で触る感動』を味わい、帰路の渋滞車中では沈黙が続く中、全員がカラオケに参加し大変盛り上がり一体感が出来たことに我々もほっと致しました。

今年度は大学側のご尽力を得て、新留学生のオリエンテーションでの案内で『三井V-Netの紹介・検定対策・日本文化社会』等の指導が得られる事を説明していた結果、中国、台湾、韓国が各2名、豪州3名の計9名が参加し、すでに交流が始まっております。

今年度は更に新しい分野を取り入れ日本語に慣れ親しんでいただくよう「交流申込結果と内容」のアンケートを取り、各人の希望を取り入れることになりました。

日本についての再考

巽 瑛理 (登録活動会員)



海外の人に日本のことをもっと知ってもらいたい、もっと好きになってもらいたいと思うようになったのは、わたし自身が留

学から帰った後からだったように思う。日本を離れる前には、日本の文化や風習といったことは当たり前のこと過ぎて意識することもなかったが、海外に渡り、日本のことを客観的にまた他の留学生の視点を通して、多面的に視ることができた。お辞儀をすること、米を洗うこと、ピースサインをすること等、彼らは奇異に思ったこと、疑問に思ったことをストレートに質問してくる。意識していなかったが観念的に日本というものが自分の中に根付いていることを気づかされるが多かった。

異国の地で暮らしてもうひとつ強く感じたことがある。それは、日本人が海外の国々に対してイメージを持っているのと同様に、海外の人も日本に対して多かれ少なかれイメージを持っているということだ。そして、そのイメージというのは幾分増幅されているように感じる。確かにそれらの言葉は、日本についての一定の正確な表現ではあるが、その強調されすぎているイメージの影に隠れて



見えなくなっている点も多い。例えば、日本はアニメだとかオタクだとか忍者というイメージがあるが、大半の人には当てはまらない。そういったキャッチーな偏見というのは日本の存在感を表す指標になるから、わたしは歓迎するけれど、日本に来た留学生には、ガイドブックや本に載っている典型的な部分だけでなく、少し曖昧な神道と仏教を折衷してしまうような、またハンバーグとご飯といった曖昧な日本の雰囲気といったものを知ってもらえればと思ったことがボランティアを始めたきっかけである。もっと極端なことを言ってしまうと、日本と海外だけでなく、関東と関西の関係だって似たようなものである。わたしは京都で生まれ育ち、昨年千葉に住むことになったため、この1年間はその違いに戸惑うことも多かった。言葉はさることながら、会話の運び方などは全然違う。特に驚いたことは、関東出身の友達が関西の人は「おおきに」と言うと思っていたことと、「なんでやねん」に対応する言葉が標準語にはないことである。そういったことはこちらに住んだからわかることで、また面白いところでもある。留学生にはそういう違い、また共通点を見つけて楽しんでもらえたらと思う。わたしは留学していたとき他の留学生に「エリは日本人っぽくないね〜」と言われたのだが、そんなわたしを通して日本の違った面を知ってほしいと思う。

平成23年度 かながわ地球環境賞 〈神奈川県知事賞〉受賞

藤谷 淳一（電気化学工業 OB）

私は、三井V-Netでは横浜国大部会で海外留学生との交流、湘南倶楽部ではエリザベス・サンダース・ホームの清掃等の活動をしております。

一方、地元藤沢市では、地球温暖化対策地域協議会に所属し、ボランティア活動でCO₂削減を目的とした市の基本計画に基づき、一般市民への普及活動を主体として約20名位の会員と共にサークル活動を行っております。

この活動の中で、私は特に小・中・高校生の環境教育が大切であるとの認識を持ち、学校でのサポート役として地球温暖化教育（出前授業）を約3年前から、各校の校長先生とお会いし、お願いしながら細々と続けてまいりました。

昨年はグループで「温暖化入門書」として小冊子を編集し教育にも利用することができました。

一方、昨年の震災による原発事故は、国の存亡にも係る問題として温暖化防止にも大きな影を投げかけられ

ておりますが、私共はこの苦難を乗り越える必要があります。

この度、私の小さな努力と今後の意気込みを盛り込み、神奈川県知事賞を申請し、幸いにも平成23年度11件の受賞者の中に入ることができました。授賞式は平成24年3月26日、神奈川県庁にて執り行われました。

「小さな努力、小さなボランティア活動」が大きな未来への発展や改善を期待されていることに誇りを持ち、環境問題の大切さと、次の世代に負の遺産を極力作らない努力が、子供達への教育という形で多くの皆様に認識して頂けたことに感謝しております。

また、このボランティアスピリットは、三井V-Netの活動の中で習得したものであり、紙面をお借りして横浜国大部会ならびに湘南倶楽部会員の皆様に御礼を申し上げます。



日赤医療センターで会員が永年活動表彰

平成24年3月13日（火）、日本赤十字社医療センターで平成23年度のボランティア総会が開催され、当総会で永年にわたりボランティア活動をされている方々に、幕内院長より謝辞の挨拶の後、感謝状贈呈式がありました。

三井V-Netの活動会員から3名の方々が表彰を受けられました。

15年以上活動表彰：田村 泰司様 塩入 信子様
10年以上活動表彰：最上 徹様



表彰を受けられた左:最上様 右:田村様 表彰を受けられた塩入様(当日ご欠席)



人と人のまんなかに。

このたび表彰された3名の方は、1階の総合案内付近で外来患者さんのお世話（再来機の操作・診療科の案内・車椅子の補助・会計機の操作など）をされています。

同医療センターで活動されている三井V-Net会員は13名の方々に外来案内のほか産科病棟でもボランティア活動をされています。

皆様は、来院の方や患者さんはじめ病院関係者からも信頼されています。

今後の一層のご活躍を期待します。

(本部事務局)



当日参加のV-Net 会員

左から:前田様、田中様、飯野様、最上様、田村様、上原様、神崎様

関西支部 (大阪)

神戸大学で第8回交流会開催

神戸大学で留学生、ボランティア、大学の先生方、三井V-Netが集まり留学生交流会が平成24年2月29日(水)神戸大学留学生センターで開催されました。

毎年2月に開催していますが、今年は第8回目となり過去最多45名の参加があり、留学生、ボランティアの皆様は日頃の一対一交流の枠を超え、先生方、交流パートナーのボランティアを求めている学生や、交流ボランティアに関心のある見学者が一同に会し、活発な情報交換が行われました。

留学生センター長・西尾茂教授より開会のご挨拶として「神戸大学の留学生数は年々増加を続け、昨年10月の統計では遂に1200名に達しましたが、この留学生数は、神戸大学の規模からすると大変多い数字であり長年の皆様の努力の積み重ねによる評価の蓄積により完成されたものと確信しており、改めて感謝申し上げます。」とのお言葉を頂きました。続いて副センター長實平雅夫教授のご挨拶があった後、ボランティアの鎌田誠様(三井物産OB)の音頭で乾杯、全員の自己紹介を行いました。今年、大変嬉しいニュースとして、スリランカ

からの留学生ウダヤンガさんご夫妻に昨年12月に可愛い男の赤ちゃんユキタちゃん(日本語で「幸太」と命名)が授かったことが披露され、全員で「Happy Birthday」を唄って祝いました。その後は皆さんで会食、話が弾むなか、ビンゴゲームを楽しみながら、ボランティアの方から寄贈されたビンゴの賞品が留学生全員にプレゼントされました。神戸大学海外同窓会ネットワーク創設・拡大に東奔西走ご活躍されている留学生センター瀬口郁子顧問が翌日ロンドンに飛ぶという超多忙のなか出席され「海外同窓会ネットワーク」に因らご挨拶をされた後、黒田准教授より「来年以降も皆勤賞を目指して参加したいと思います。」と閉会のご挨拶があり、三井V-Net事務局より一対一の小さな国際交流が将来は国と国との大きな友好関係に発展することを期待しますとの挨拶でお開きとなりました。

(関西支部事務局)



お礼の挨拶

瀬口 郁子



神戸大学留学生センターの瀬口でございます。三井V-Netの皆様には、10年あまり前から大変お世話になっております。そしてこのような、FACE to FACEの会を毎回開いて頂いており誠に有難うございます。

実は、一昨日千葉大学へ出張しておりましたが、千葉大学でも三井V-Netのお話が幾つか出て来ました。また、去年、東大に行った時にもやはり三井V-Netの話が出て来て、そして昨年の3月ですが、出張でミャンマーに行った時も、ある卒業生が奥さまと可愛いお嬢さんを連れてネピドーからわざわざヤンゴンまで訪ねて来てくれました。そして「この娘ですが、神戸で生まれた時、三井V-Netに大変お世話になりました」とおっしゃり、本当に感激致しました。私は代理で感謝(←お礼)の言葉を頂戴して参りましたが、やはり人と人の繋がりとというのは格別で、その度に感激しております。

定年後、私は今、週に一度しか大学に来ておりません



ので、三井V-Netの皆さんのお話を聞くというのは、ニュースレターを通じてということになりますが、この度は、海外とか国内の別の大学の方々からお聞きするということが多かったようで、その広がりを感じて非常に嬉しく思いました。また人の繋がり温かさ、重要性も改めて強く感じました。

私は、今晚から関空に行き、明朝から「欧州神戸大学同窓会」のネットワークの拡大のため出張致します。いわゆる欧州地域の新しい都市に種まきに行くのですが、先ずロンドンで一粒の種まきをして、その次は、列車移動で「神戸大学ブリュッセルオフィス」で開催されるシンポジウムと「欧州神戸大学同窓会」に参加して参ります。その後はパリに移動して、そこでも新たな種まきを留学生センターの仲間と共にする予定であります。

そこでまた、三井V-Netのネットワーク力をお願いしたいがございます。いつもお願いばかりで恐縮なのですが、三井V-Netは世界中に展開なさっておられますので、三井V-Netのネットワーク力を神戸大学の海外同窓会ネットワークにマッチングして頂ければ・・・と。つまり神戸大学を卒業された方で、三井V-Net関係の方々、アジアをはじめ、世界中にいらっしゃると思うのですが、その方々にも是非、神戸大学海外同窓会ネットワークをご紹介いただければ、神戸大学のネットワークもより充実したものになるのではないかと、そうなればいいなあと願っております。これは、国籍、専門を越えたネットワークで、今ここにお集まりのみなさまのような形のネットワークなのです。そうなれば正に“V-Net！”(笑)。本日は、本当に有難うございました。

神戸大学留学生センターでは、西尾センター長、瀬口先生始め全学を挙げて「神戸大学海外同窓会ネットワーク」拡大に取り組まれていて現在アジア9ヶ国（韓国、台湾、中国、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、ミャンマー）及び、欧州1ヶ国（ベルギー「神戸大学ブリュッセルオフィス」）に海外同窓会を拠点とするネットワークがあります。三井V-Net関西としても神戸大学の海外ネットワーク展開に協力して瀬口先生の言われる文字通りの“V-Net”実現に貢献出来るよう、全国のV-Net会員に呼び掛けたいと思っています。

皆様のご協力をお願いします。

(関西支部事務局)

キリバス人留学生 クーレタ君紹介

藤岡 徹（三井住友海上 OB）

私は、三井V-Netの紹介で、昨年の暮れからキリバス人のクーレタ君と交流を始めました。彼の国の人口は約11万人で、国土（島）は数十年後に海に沈んでしまうそうです。

フィジー島の南太平洋大学を卒業、大統領府に2年間勤務した後、国の未来を背負って来日しています。日本語と格闘する毎日です。今は、週一回、神戸大学のロビーで日本語で雑談しています。毎日、教会に行くのを欠かさない真面目な性格です。

キリバス共和国の紹介

クーレタ トアカイ（神戸大学キリバス留学生）



私は、キリバスの首都タワラから来ましたクーレタです。25歳で神戸大学の学生で、去年の4月に、日本に参りました。神戸大学で政治学を勉強しています。私の専門は、今年の4月から始まっています。

日本に来てから、はじめて日本語を勉強しましたが、日本語の勉強は、本当に大好きなので、続けたいです。私の大学院（人間発達環境研究科）のコースも日本語だけですから、これも私の日本語の勉強のいい機会です。

キリバスの家族は7人です。両親と5人兄弟です。日本語がもうちょっと上手になったら日本の生活は、本当に楽しくなります。

◇キリバス

正式名称は、Republic of Kiribati、通称Kiribati。キリバス語での発音は「キリバシ」または「キリバス」のように聞こえます。日本語の表記は、キリバス共和国。通称キリバス。また漢字では、「吉里巴斯」と表記します。国名は、1788年、イギリス人ギルバートが、この海域を航行したことからギルバート諸島（Gilbert Islands）と呼ばれたことに由来します。キリバス語はg音やl音を欠くため、“Gilbert”が転じて現国名の形となりました。

◇政治

Maneaba ni Maungatabuと呼ばれるキリバスの議会は、4年に一度の選挙で選ばれた44人の議員で構成されます。大統領は、元首であると同時に行政の長



でもあり、Beretitentiと呼ばれます。21の有人の島には、それぞれ地方議会があり、日々の問題を処理しています。主要政党には、真理の柱 (BTK)、キリバス共同体党 (MYM) の2党があります。

◇地方行政区分

キリバスは、3つの行政区、ギルバート諸島、ライン諸島、フェニックス諸島からなっています。以下の6地区があります。

バナバ (Banaba)、中央ギルバート諸島 Central Gilberts、ライン諸島 (Line Islands) 北ギルバート諸島 (Northern Gilberts)、南ギルバート諸島 (Southern Gilberts)、タワラ (Tarawa)。

タワラを含む4つの地区は、ギルバート諸島にあり、住民の多くは、ここに住んでいます。

ライン諸島には3つの島だけに人が住んでおり、フェニックス諸島ではカントン島に住民がおり、ライン&フェニックス地区を代表しています。バナバの2001年の人口は約200人であるが、フィジーのランビ島に移り住んだ人々を代表するランビ指導者評議会 (Rabi Council of Leaders) がフィジーのランビ島に設立されたおりバナバ及びキリバス政府と密接な関係を保っています。

◇卒業後

私の研究が終わって、国へ帰ったら、キリバスの大統領府に入るつもりです。日本に来る前に2年くらい大統領府で働いていました。キリバスの発展に貢献したいですが、日本の経験を生かそうと思っております。

神戸大学医学部附属病院で ボランティア活動

塩浜 清 (三井製糖 OB)



2010年8月に初めて三井V-Netに登録しました。関西支部より紹介があり須磨海岸の清掃ボランティア活動に初めて参加。昨年、三井V-Net関西支部より神戸大学医学部附属病院内のボランティアの案内を頂き関西支部に連絡。前田さんよりお願いしますと連絡があり、早速、ボランティアコーディネータの光本さんを訪問する。光本さんから面談を受ける。ボランティア内での決め事、入院患者さん、外来患者さん、図書利用者への誠実な対応、病院内花壇の清掃、年1回バザー開催の活動内容等の説明を受ける。光本さんより指定の病院で健康診断を受け、数日後結果異常ありませんとの連絡で、神

戸大学医学部附属病院長杉村和朗様より、ボランティア活動承諾書を受け取りました。晴れてボランティア活動に。先輩と一緒に図書館のシフトに入り本棚の整理整頓、作家別に仕分け、また日付の交換貸し出しをノートに記帳、返却日確認のチェック等の作業を親切丁寧に指導頂きました。その後余り自信が無かったのですが、一人でシフトに入り悪戦苦闘しながらトラブルもなく無事終了ホッとしました。

ボランティア活動にも慣れ仲間と挨拶、会話も自然に出来るようになりました。本を借りに来られた患者さん、返却に来られた患者さんに誠心誠意接すると笑顔で言葉が返ってきます。私も笑顔で対面し嬉しく楽しいです。

今後出来る限り頑張っていく予定です。最後に三井V-Net、また会社に迷惑を掛けないように努力する覚悟です。



今後出来る限り頑張っていく予定です。最後に三井V-Net、また会社に迷惑を掛けないように努力する覚悟です。

子ども達の笑顔に囲まれて喜びと元気を

誉田 隆夫 (日本ユニシス OB)



定年退職後のセカンドライフとして、ミュージアムボランティアに携わることができないものかと思い準備していましたところ、折良く「キッズプラザ大阪のインタープリター募集」に巡り合うことができました。

元々子どもが大好きであったことや、永年IT関係の仕事に従事していましたので、多少なりとも経験を活かすことができるのではないかと思います。「パソコン・インタープリター」として活動を始めて丁度2年が経ちました。

キッズプラザ大阪は、日本で最初の「こどものための博物館」としてオープン以来、本年7月で開館15周年を迎えます。平日は保育所、幼稚園、小学校などの団体利用、また土日祝日には家族連れや子ども会の遠足利用で年間42万人(通算600万人超)の来館者が訪れて、館内は常に笑顔と歓声で満ち溢れています。

私たち、インタープリターは、子ども達がのびのびと楽しく遊び、それぞれのテーマへの興味や発見を發展させるための見守り役として、さり気なく子どもに近づき、子どもの疑問や質問、指摘に答え、一緒に遊びます。

例えば、私が担当しているパソコン広場では、「ピッケのおうち(ソフト)」にて上手にぬり絵が出来たときや、コンピューター工房でのワークショップ「おだんごころり



ん」にて、大型スクリーン上で「おだんご」がうまく転がって、見事カゴに入った時などには、子ども達は本当に嬉しそうに喜んでくれます。

帰り際に「ああ楽しかった!」「ありがとう!」と言ってくれた時には、こちらもつい嬉しくなって、思わず「ありがとう、また来てね!」と返します。一日の活動の疲れなど一気に吹っ飛んでしまうような喜びの瞬間です。

パソコンコーナーの他、スタジオ、フロア(科学・自然、文化・社会、乳幼児・キッズストリート、キッチン)の各コーナーがあり、それぞれインタープリターさんが楽しく活動されています。



お孫さんと一緒に一度遊びにお越しください。きっと新たな発見があると思います。お待ちしております。

中国支部 (広島)

三井V-Netに入会して

藤澤 圭子 (登録活動会員)

今回新たに三井V-Net中国支部に入会しました藤澤と申します。

2007年より地元NPO法人WFEN『西緑地公園愛護クラブ』が実施している活動に、CSRの一環として年1回都合の良い時期に営業所全員で参加しています。活動内容は山口県周南市にある西緑地公園(万葉の森)の清掃です。季節により清掃内容は変わりますが、公園の草取りや園路の枯葉収集、枝切り、小川の整備等です。

園内はウォーキングが出来るようになっており、清掃しているとお散歩をしている方が声をかけてくれます。また清掃の合間に自然と触れ合い公園内植物の勉強もさせて頂いています。

季節により色々体感でき春にかけては草に見える母子草(春の七草“ごぎょう”のこと)は、黄色の花を咲かせます。冬イチゴも生っており食べてみると甘酸っぱい味がし、ユウカリの枝切りの時には、ツンとする独特の匂いを嗅ぐことができました。

また秋には秋の七草の“をみなへし(女郎花)”, 万葉植物の“びなんかずら”(男性の頭に塗る油ポマードに使われていた)、お祝封筒に使われる紅白の紐から名前が“みずひき”など普段目にしない植物も多く、丁寧な説明を受けながら大変楽しくまるで童心に戻ったようでした。

近年では、外来植物が入り込んで本来あるべき自然の植物が少なくなっているとのことで、自然環境の保護・保全・再生の観点から、外来植物の除去作業等も行います。もともと生えていた日本の野草を大切に、増やしたいという試みで以前参加した時はコウヤマキの苗木を植えました。

1年に1回のボランティア活動ですが、小さな感動や清々しい気分させて貰っています。今後も三井ボラン



ティアグループの一員として地域との連携のもと環境整備活動に参加していきたいと思っています。

*事務局:筆者は東芝プラントシステム(株)山口営業所に勤務

広島八景園 (特別養護老人ホーム) の ボランティアに参加

江崎 憲吾 (登録活動会員)



筆者がハーモニカを演奏中

定年退職後は、ボランティア活動に関わりたと思っていてところ、ボランティアグループ「スリーコインズ」の細川代表にお誘いいただき、メンバーの一員(ハーモニカ演奏)として活動に参加しています。

さて、去る平成24年3月13日(火)メンバー15名で、昨年9月以降2度目となる広島八景園(特別養護老人ホーム)を訪問しました。

メンバーが揃い舞台前に並ぶと、園の職員、入居者の皆さんに大きな拍手で迎えていただきました。メンバーは皆さんの歓迎に最後まで楽しんでもらえるよう、銭太鼓など6演目を精一杯披露しました。

芸が始まり、軽快な「花笠音頭」の曲が流れ「シャカシャカ」とメンバーの息の合った銭太鼓に、皆さん一点集中で注目し、一気に雰囲気吸い込まれた様子でした。安来節の踊りに続き、“さて♪さて♪さてさて♪”の口上で始まり南京玉すだれの「東京スカイツリー」などの技に「おーっ!」との声や拍手もあがっていました。手品では、次々と飛び出す小物に目は手元に釘付け、「次は何が出てくるんじやろう?」と不思議そうに首をかしげる方も。ハーモニカ演奏では懐かしい歌に故郷を懐かしみ情景を思い描きながら歌われていたのでは? 最後は、“テ



人と人のまんなかに。

ンテケテン〜♪”の曲が流れ、ひょっとこが登場、腰を振りながら踊りだすと、皆さん手拍子、足拍子をとるなど盛り上がり、芸も最高潮となり、一時間の活動も盛況のうちに終わることが出来ました。

今後も地域への貢献とメンバー相互の親睦を図るため活動に参加したいと思っております。



平成24年2月13日 スリーコインズ 八重瀬駅前

日本語ボランティア

原田 隆生 (登録活動会員)

2011年8月から2012年1月にかけて日本語ボランティアを行いました。このボランティア活動は、東広島市教育文化振興事業団が主催しているものです。東広島市には、広島大学の留学生や企業の研修生等多くの外国人が住んでおられます。その人たちの中には、日本語を勉強しある程度話せるようになったにもかかわらず、普段日本語を話す機会がなく、上達が思うように進まない人たちもおられます。今回のボランティア活動は、この人たちの話し相手になるというものです。私としては今回2回目となります。この度の相手の方は中国人で、武漢の大学を卒業後中国に進出した日本企業に2010年7月に就職され、2011年6月から2012年2月迄、東広島市にある本社で研修されました。会社においても一日2時間の日本語学習があり、日本語は大分上手に話す方でした。一週間に一度2時間程度話す機会を持ちました。一番難しいのは、話題をたくさん準備しておく必要があるということです。そのため、インターネットや新聞で中国に関する記事をできるだけ目を通すようにし、また中国の歴史も勉強しました。日本語の難しさの例を挙げますと、同じ意味をあらわす言葉がたくさんあるということがあります。例えば、「父」の同義語に「おやじ」「お父さん」「パパ」…等です。また二つの言葉をつなぐ場合日本語では「の」を使います。例えば「空の青さ」「車の広告」のようになります。そのため「白いの雲」のように言ってしまうとの悩みもあるようです。私も日本語をわかり易く教えられるよう、機会ある毎に勉強しています。



「ひとは祭り」のお手伝いを終えて

黒瀬 睦 (三井物産 OG)

11月26日、(社福法人) ひとは福祉会主催の「ひとは祭り第23回“人間ホール”」に参加するため安芸高田市の若者センターへ行ってきました。ボランティア仲間2人で、ひとは作業所の人(20代の男性)とパートナーになり行動しました。その方は話すことができず、手も不自由でほとんどじっと座っていることもできない状態でしたので今日一日お世話ができるか心配しましたが、ホールの中や野外の会場を歩き回っているうちに次第に慣れてきてその後は私の手を取っては移動しました。



午前中は、ホールで地元の小中学生の合唱、ソーラン踊り、「小佐姉妹」のダンスや、作業所の皆さんのハーモニカと合唱などで楽しみました。野外では焼きそば、フランクフルト、たこ焼きやなどの販売や餅つきなどがありました。昼食は麺類が好きでないという事前の情報でカレーと鶏のから揚げを買い少しずつ小分けにして食べてもらいました。午後は「ザ・わたしたち」のコンサートがあり、午前10時から5時間あまりの活動を終えました。

8月末に参加した「ひとは夏まつり」でパートナーになった二人の娘さんとも会うことができました。障害の軽い二人は、人なつっこく元気にお祭りの様子など話してくれてとても嬉しかったです。

知的障害者介助ボランティアは意思疎通に難しさを感じますが、「人」と「人」との出会いでもあり充実した一日を過ごすことができました。

ひなまつり「お琴とお茶の会」に

参画して

佐々木博江 (登録活動会員)

2012年3月1日(木) 三入東児童館にて日本文化探究講座と題して「お琴とお茶の会」が広島市安佐北区三入公民館の主催で催されました。

ひなまつりに鑑み地元小学生を対象に日本琴の演奏を聞き琴を体験しお抹茶を頂くという企画でした。今回その演奏で参画しました。当日は小学生、先生、ご父兄、地元の方を含め約80数名の方が参加されていました。

ひなまつりにちなんで可愛い、楽しい、春らしい曲を選曲し数曲メドレーで30分程度演奏しました。その間子供たちはお琴のそばに来てお行儀良く、初めてお琴の



音色を聴いた子供もいて一生懸命静かに聴いていました。

最後にひなまつりの曲を4番までお琴の伴奏に合わせて皆で大きな声で歌い笑顔も見えてきました。

引き続き演奏の後、琴のつめをはめて琴の音を出す体験コーナーを行いものめずらしそうにお友達がけいこをしている間、他の子はお抹茶とお菓子を頂きながら、お雛様を題材にした掛け軸を見たり、生け花を見たり盛り沢山の日本文化にふれ皆楽しそうでした。

子供たちが直接日本の伝統文化にふれ何かを感じてくれたらいいなと思いました。これからも機会があれば続けていきたいと思っています。



(事務局：筆者は箏曲指導者です)

平成23年度「ひろしま国際サミット」 総会・広島地域分科会に出席して

三井 V-Net 中国支部 佐々木邦晴



ひろしま国際センター主催による総会・講演会・研修会が平成24年2月18日(土)13時から広島ガーデンパレスで開催され出席した。

講演はNPO法人多言語センター FACIL理事長の吉富志津代氏が講師に招かれ「国際協力を現場から考える今、私たちにできることー神戸と東日本の事例から」との演題で行われ、実際に両大震災時に行動された体験談だけにリアルさと緊迫感があった。

災害時における対応は日本人、外国人に分け隔てなく取り組まなければならないことは理解できるが、なかなかそこまで発想して具体的行動に移すことはできるものではない。

特に被災した外国人にとって災害時の対応は言語、地理、地域社会との絆の薄さ等大きなハンディがあり外国人だけの力では困難である。そんな中で外国人を意識した救助活動として、いち早くラジオ局を立ち上げ色々な外国の言葉で的確な情報を流し大きく貢献された吉富さ

んの話に感動した。

研修会は「災害を想定したシミュレーション」をテーマに吉富氏の司会で行われた。

自分が外国人に成り代わって災害時どう行動できるか考え、どのような問題が発生しその時地域社会はどう対応できるのか分科会で討議した。日頃よりグローバルな考え方、国際交流を意識した生活をしていないと考えもおぼつかない活動だと改めて認識させられ刺激を受けた。

最近、宇宙ステーションから見た地球がテレビでも放映され、国境のない地球はひとつだと強調していたが、その気持ちは実生活に戻るとすぐに薄れてしまう。三井 V-Netのボランティア活動の大きな柱として国際交流の分野がある。できることから始め、少しでも国際交流の輪の一員として活躍できれば考える観点も変わってきて、また新たな自分を発見できるかもしれない。

事務局便り

一事務局員の異動ー

退団事務局員挨拶

本部(東京) 林 弘子(登録活動会員)



「三井V-Net事務局とは、留学生に日本語学習の場を提供しているところ」という程度の理解のみの老婆に、正式の事務局員としての席をいただいたのは、正に晴天の霹靂でした。顧みれば短い期間ではございましたが、皆様にお掛けしたご迷惑は数知れず、そして、皆様のご親切なご指導、ご支援のお陰で、無事、退団の日を迎えさせて戴くことができました。悲喜交々の思い出を胸に、ここに心底より皆様から頂戴した貴重な時間に御礼を申し上げます。有難うございました。

が、皆様にお掛けしたご迷惑は数知れず、そして、皆様のご親切なご指導、ご支援のお陰で、無事、退団の日を迎えさせて戴くことができました。悲喜交々の思い出を胸に、ここに心底より皆様から頂戴した貴重な時間に御礼を申し上げます。有難うございました。

入団事務局員挨拶

本部(東京) 下加茂 洋子(三井不動産 OG)



本年5月1日より週2日間(火・木曜日)勤務させていただいております。3月末まで三井不動産に勤務していました。事務局から声をかけていただき、再就職の厳しい時代に願ってもない勤め口をご紹介いただいたのも縁あってのことで、このような「人との縁」というものの



人と人のまんなかに。

大切さを再認識いたしました。

これからボランティア活動をお手伝いしながら、私自身も可能なボランティアには参加させていただき、さらに人とのご縁を広げていければいいなと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

中国支部 佐々木邦晴（東芝 OB）

昨年12月1日付にて、三井V-Net中国支部に入団し、前任の上村さんの後を引き継ぐことになりました。東芝グループにてエネルギー分野である重電設備の営業・



販売一筋に従事して参りました。

ボランティア活動の経験はありませんが、今まで諸先輩が築いてこられた活動を継続維持しながら、中国支部の広報活動の強化、会員皆様とのコミュニケーションの場として魅力ある組織に向け、会員の増員および活動の幅をより拡大して行きたいと思っています。

引き続き会員の皆様を初め関係各位のご支援ご指導をよろしくお願ひします。

2011 年度「三井 V-Net 奨学金（ダルニー奨学金）」支援報告

三井V-Netでは「書き損じはがき」「未使用はがきと切手」および「使用済みインクカートリッジ」など資金源となる物品を随時収集しております。

集めた品々は一年ごとに取りまとめ、一般財団法人国際センターのダルニー奨学金を通じて換金し、『三井V-Net奨学金』の名義にてアジアの子ども達の就学支援に充てています。

2011年度の支援状況につきましては、タイにて16名、ラオスでは8名、合計24名の子ども達に就学の夢を叶えさせることができました。先だつては7名の子ども達の卒業にあたり、お礼状が届きました。

これまでの皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、継続的な活動の実現のため、今後も広く収集を呼び掛けていく所存でございます。

なお、東京にて年4回開催しております一木会例会の会場受付にても資金源となる上記物品をお預かりいたします。また、東京・関西・中国の三井V-Net各事務局にてもお受けいたしますので、少量でもご持参、ご送付いただければ幸甚でございます。



